

副市長	俵 輝孝君
副市長	一宮 努君
教育長	糸瀬 英俊君
総務部長	庄司 克啓君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	犬束 幸吉君
しまづくり推進部長	藤田 浩徳君
観光推進部長	平間 博文君
市民生活部長	阿比留忠明君
未来環境部長	三原 立也君
福祉部長	田中 光幸君
保健部長	阿比留正臣君
農林水産部長	平川 純也君
建設部長	原田 武茂君
水道局長	桐谷 和孝君
教育部長	扇 博祝君
中対馬振興部長	日高 勝也君
上対馬振興部長	原田 勝彦君
消防長	井 浩君
会計管理者	勝見 一成君
監査委員事務局長	神宮 秀幸君
農業委員会事務局長	栗屋 孝弘君

午前10時00分開議

○議長（春田 新一君） おはようございます。

報告します。安田壽和君から遅刻の届出があっております。

ただいまから、議事日程第3号により本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（春田 新一君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、4人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。会派、未来改革の糸瀬雅之でございます。

ます。昨日まで4日間にわたり、予算審査特別委員会が行われました。針谷委員長をはじめ、議員皆様、そして市長部局の皆様、大変お疲れさまでございました。

しかしながら、対馬市にとりまして、令和8年度予算は大変厳しい予算編成となっております。本日より3日間、一般質問となりますが、市長ほか各担当部長の皆様、よろしく願いをいたします。

一般質問に入ります前に、この場をお借りいたしまして一言お祝いを申し上げたいと思います。

先月2月8日に、衆議院議員総選挙、また長崎県知事選挙の同時選挙が行われました。日本列島を強く豊かに、全国的に高市早苗総裁人気の影響もあり、歴史的な、自民党が316議席という圧倒的な強さの結果となりました。対馬市の選挙区におかれましても、長崎2区、自民党、加藤竜祥衆議院議員が当選をいたしました。

また、新たな長崎県のリーダーを決める長崎県知事選挙におきまして、国土交通省出身、元長崎県副知事を務められました平田研候補が、現職の大石候補を僅差で破り、新長崎県知事となり、長崎県政がスタートいたしております。改めまして加藤衆議院議員と平田新知事にこの場をお借りいたしまして、おめでとうございますとお祝いの言葉を申し上げたいと思います。

しかしながら、今回の知事選挙は、長崎県内21の自治体の市長、町長が支持し、支援を二分する激しい戦いでありました。対馬市の比田勝市長は現職の大石元知事を支援いたしていただいたので、結果としては非常に残念な結果になったと思います。

対馬市にとりまして山積する課題解決に向けて、今後、国や長崎県との連携や予算要求、要望活動など非常に厳しい風当たりがあるのではと心配をいたしております。今後は気持ちを切り替えていただき、対馬島民2万6,000人のリーダーとして、誰一人取り残さないためにも、ありとあらゆるパイプを使い、考え行動していただきたいと思います。

今回の一般質問は、今後の比田勝市政の公約実現に向けての取組や、議会、国や長崎県との連携に向けての考えを中心に質問をいたしたいと思いますので、議会、市民の皆様に対して分かりやすく実効性のある答弁をよろしくお願いいたします。

それでは、通告をしておりました一般質問に入ります。

まず1点目、対馬市の市政運営についてでございます。

比田勝市長の任期も残り2年となりましたが、公約の実現に向けて取り組むべき最優先政策は何か。また、今後国や県との連携をどのように考えているのか、答弁をお願いいたします。

2点目、副市長の2人体制のこれまでの具体的な実績と効果検証を踏まえて、今後、現体制のまま進めていくのか、答弁をお願いいたします。

2点目の雇用機会拡充支援事業についてでございます。

これまでに採択をされ、その後、廃業、事業を休止をされている事業者や個人の補助金返還対

象者への対応は、今後どのように考えているのか、答弁をお願いいたします。

以上、2項目3点についてよろしくをお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、公約の実現に向けて取り組むべき最優先政策は何か。また、今後、国や県との連携はどのように考えているのかとの質問でございますが、私は、所信表明におきまして、誰一人取り残さない未来へつなぐしまづくりを掲げ、この指針の下、守る、育てる、働く、整える、そして攻めるという5つのワードを軸とした未来創造戦略を推進し、今日まで施策を講じております。

その中で、本市が直面する最大の課題であり、最優先で取り組むべき政策は、言うまでもなく人口減少対策であります。

本市におきましては、移住・定住の支援をはじめ、有人国境離島法に基づく様々な施策を積極的に展開してまいりました。その結果、人口減少の速度は、合併当時に比べて確実に緩やかになってきております。

具体的には、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計において、令和27年時点の本市の推計人口は、平成30年の推計では1万3,731人でありましたが、令和5年の最新推計では1万5,434人と、約1,700人も大幅な改善が見られております。これは、私たちの進めてきた施策が着実に実を結んでいるものと考えております。

人口減少対策は、例えば、創業支援事業や担い手確保事業など、単一の事業で成し遂げられるものではございません。移住・定住の推進、子育て支援、教育の充実に加え、第一次産業の活性化や持続可能な観光の推進といった各分野の施策が、歯車のようにかみ合うことで初めて大きな効果を発揮するものと考えております。

こうしたあらゆる施策を人口減少対策という一つの大きな流れの中で総合的に結びつけ、その羅針盤となるのが、本定例会で審議をお願いしております第3次対馬市総合計画であります。

この新たな計画に基づき、各施策の相乗効果を最大限に引き出していくことで、令和8年度の施政方針でも述べさせていただきましたとおり、これからもこの島で暮らしたいと誰もが心から思える持続可能な対馬を市民の皆様とともに作り上げていく所存であります。

なお、国や県との連携につきましては、離島振興の強力なエンジンであります、有人国境離島法の継続・拡充に向け、引き続き、国に対し強く働きかけを行ってまいります。

また、防災・減災対策については、国や県と緊密な連携を図るとともに、医療、教育、産業振興の各面においても、県との協力体制を堅持し、国境の島としての役割を果たしながら、本市の発展を確かなものにしてまいりたいと存じます。

次に、副市長2人体制のこれまでの具体的な実績と効果検証を踏まえて、現体制のままで進め

ていくのかとの質問でございますが、副市長2人体制につきましては、私の補佐役として複雑化・多様化する行政需要に対し、迅速かつ的確な意思決定を行うトップマネジメントとして、内部管理や施策の着実な執行、さらには国、県との連携、戦略的なプロジェクトの推進など、それぞれの専門性や経験を生かした役割分担を行うことで、組織としての相乗効果を最大限に発揮させる体制を整えているところでございます。

これまでの具体的な実績として、第1に意思決定の迅速化と事務効率の向上であります。副市長が役割を分担することで、組織内の内部協議のスピードが劇的に上がり、それに伴い職員の事務処理も加速いたしました。これにより喫緊の課題に対しても停滞することなく機動的な対応が可能となりました。

第2に多角的かつ高度な判断体制の確立であります。両副市長がそれぞれの専門的見地から議論を深めることで、より洗練された政策判断が行えるようになりました。また、私を含めた3人による協議の場では、さらに重層的で深みのある議論の下、重要施策の質が格段に向上していると考えています。

第3に、トップマネジメントの最適化と対外機能の拡張であります。両副市長が実務を強力に牽引することで、私自身の業務負担の軽減が図られ、より大局的な市政運営に注力できる環境が整いました。また同時に、両副市長が役割を分担して重要施策を担うことで、これまで出席が困難であった国・県の会議や、重要なイベントにも幅広く対応が可能となりました。その結果、外部とのネットワークも広がっております。

私が考える副市長2人体制は、本市が抱える諸課題に対し、スピード感と専門性を持って対応するための極めて有効な布陣であると確信しております。

現体制は、本市の持続的な発展と市民サービスの向上に不可欠なものであると判断しており、今後も現行の2人体制を堅持し、一丸となって市政の推進に邁進してまいりたい所存であります。

次に、雇用機会拡充事業支援制度についてでございますが、まず、本補助制度がスタートした平成29年度から令和7年度までの9年間での採択事業数は、134事業となっております。やむなく事業廃止等により補助金返還の対象となった事業もございます。

この補助金返還につきましては、事業廃止等が確定した時点で、国や県に報告し、本補助事業により取得した財産の残存価格等に基づき、補助金負担割合に応じて返還額の決定がなされます。その後、返還スケジュールを組み、まず市に納入いただき、市から国費分を含め県へ納入し、県から国へ納入という手続になっております。この返還額やスケジュールの確定に際し、国との協議及び決定にかなりの時間を要しております。

この雇用機会拡充支援事業の採択に伴い、申請者においても自己負担はあり、廃業等による自己資金の損失や補助金返還のリスクを背負うこととなります。そのことから、今年度より事業計

画段階で事業の継続性や実現性を重点的に審査するため、民間審査員の増員などにより審査の強化を図り、慎重な審査のもと、採択決定をしております。

また、採択事業後における経営指導等につきましては、アドバイザー派遣事業の活用を進めております。本事業の基となる有人国境離島法も令和9年3月までとなる中、先ほどの答弁の中でも申し上げましたが、体調不良や事業不振による事業廃止もございますが、この事業は、人口減少の緩和に寄与する大切な事業の一つであると考えております。

法の改正、延長がされる場合には、制度の見直しもあることとは思いますが、引き続き、事業の推進及び活用を図ってまいります。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） まず市長の市政運営について、一問一答で質問していきたいと思

います。
市長は、毎年所信表明で、その年の干支にちなんだ目標を掲げられます。今年は、丙午ですよ

ね。跳ねる、駆ける、そして達成することを念頭に全力で臨むと答弁されております。
そして、第3次総合計画に沿った4つのテーマを掲げ、各事業を推進していく。そして、今、残り2年、これだけは達成したいという質問だったんですけども、重要政策は、人口減少対策を今後もやっていくということを最重要政策として考えられているということですよ。はい、分かりました。

市長は、まず、私は世界最先端の未来都市をつくるということを言われるのかなと思っていたんですけども、これではなくて人口減少対策ということですよ。はい、分かりました。

今、市長が先ほどこの人口減少、間違いなく効果が出ているということを述べられましたが、本当にこれは人口減少が止まってきているのか、私はそうは思いません。

今、対馬市の人々がトップとして、これまでいろんな政策をやられてきた中で、まず対馬市のリーダーに必要なのは、決断力と行動力なんです。今を生きるこの対馬島民の子どもから大人まで、日常生活がいま少しでも豊かになる生活環境、そして支援体制、韓国人観光客に依存しない対馬島民ファーストの政策が一番だと私は考えておりますが、この辺について、人口減少とは別に、このような今を生きる島の市民のための政策、これは何か考えていないのか、答弁をお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、この人口減少対策についてでございますけれども、確かにこの人口減少はなかなか止めることは難しいと。これは対馬だけの問題じゃなくて、日本、全国的な問題でもあります。

しかしながら、このまま放っておくわけにはいかない。少しでもこの人口減少のスピードを緩やかにしていく施策が必要ではないかという思いの中で、これまでもいろんな施策を実施しているところがございますが、先ほども冒頭答弁の中でも申し上げましたように、これまで有人国境離島法等を活用させていただいて、いろんな施策を進めてきた結果が、令和27年ですかね、2045年の人口推計では、約1,700名ほどの人口の差が出てきたと。減る人口が緩やかになってきたということがございますので、この人口減少については、これを逆に増やしたいという思いはございますが、なかなか難しいということで、私は、これまでもこの人口減少対策については本当に重要な問題であります。少しでもこの人口減少を緩やかに、スピードをダウンさせていきたいという思いでこれまで進めているところがございます。御理解をお願いいたします。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 市長の思いも分かっております。やはりこの人口減少ちゅうのは、なかなか止まらないのは私も理解しております。

その中で、今、この令和8年度予算、令和7年度より3.9%減の13億2,900万円少ない328億7,800万円が当初予算でございます。大変厳しい財政状況の中、今、対馬市は来年度の予算を組まれました。しかし、この財源、これはやはり喫緊の課題は人口減少に伴いますけれども、財源の問題が私は一番の課題であると思います。

その中で、今回、財政調整基金、減債基金、そして合併振興基金から35.8億円の繰入れを行っております。もう今現在、令和8年度当初予算ベースで財政調整基金は6億6,500万円、今現在ですね。あります。

今、この対馬市の山積する課題、もう市長も御存じでしょう。対馬市役所庁舎建て替え問題、厳原小学校の建て替え問題、上対馬病院の建て替え問題、そしてジェットフォイルの新造船の建設の問題、様々な大型事業がこれから待っております。

この財政運営をしていくのに、市長、期待だけ持たせても駄目なんです。期待だけ持たせても駄目なんです。今から先、この事業を本当にやれるのか、やれないのか。この2年間である程度の方向性を示していただきたいんですけれども、この本音で言ってください。できるのか、この大きな事業が。それをまず簡単に答弁をお願いします。1点だけでもいいです。まず対馬市厳原小学校、まずそれだけでもいいです。答弁をお願いします。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、議員のほうもおっしゃられたように、来年度、令和8年度の予算は、基金等の取崩しによりまして、329億円弱の予算を編成させていただきました。

確かに財政的には大変厳しい中ではございますけれども、先ほど申されたように、今後まだまだ大きな公共事業等、そして庁舎建設、まして厳原小学校の建て替え等も、今、築60年という

ことで迫られているところでございますので、今後、特にこの巖原小学校の問題につきましては、保護者等の説明会等、またこれから実施をしていかななくてはならないというようなことで、この実現に向けて、せめてあと私の任期2年間ございますが、この2年間のうちにその方向性だけは示してまいりたいという思いを持っているところでございます。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 次に、まず国、県との連携についてでございますけれども、2月8日、長崎2区衆議院議員総選挙において、自民党加藤竜祥代議士が当選をされました。そして、長崎県知事は、平田長崎県知事が新知事となりました。

市長にお尋ねしますが、市長は大石知事を支持された、その最大の理由は何だったのか。市長は自民党員でございますよね。自民党員でありながら大石知事を支持された最大の理由は何なのか。そして、2年前に市長は自民党長崎県連から推薦を受けていますよね。それで支持をされたということは、まず最大の理由をお聞かせください。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今回の長崎県知事選挙におきまして、現職の知事のほうを私は支持したわけでございますけれども、この対馬市におきまして、まず特別支援学校の決定等をしていただいたということで、この令和9年から開校をするということが一つ大きな点でございますし、ましてや市民の悲願でありましたこのジェットフォイルの更新につきましても、県のほうがかなり力を入れて先導をしていただいたというようなことで、ジェットフォイルの更新契約も実現をして、もう早速建造にかかるというようなことになりましたので、私といたしましては、このような知事の御支援があったものということで、現職の知事のほうを応援をさせていただいたところでございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） はい、分かりました。私たちは新人である平田知事を支援いたしました。対馬市にとって、やはり今後国や県の支援なくして行政運営は非常に厳しいと思い、そして今、高市総裁、加藤竜祥代議士、そして国土交通省出身の平田知事、このパイプが、長崎県、今後ですね。対馬市、そして長崎県にとってこのパイプが、非常に今から先、国交省の関連の予算の要求や要望、多々あると思い、我々は支持をしました。

これは、人それぞれ支持の仕方はいろいろあるかと思えます。今後、市長が国、県へ、平田知事等に、いつ頃御挨拶に行く予定なのか、その辺は考えられていますでしょうか。

○議長（春田 新一君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、加藤衆議院議員、そして平田新知事のほうには、お祝いの電報

等を送っております。

そして、いつ、そのようなまた挨拶に行くかというところは、まだ今のところはっきり決めているわけではございませんが、今現在、平田新知事のほうも、この5月には対馬のほうになるというような情報もいただいておりますので、そのときには、もう確実にお会いすることは可能だと思いますが、できれば、その前に県庁等に出向いた際には、平田知事のほうにはお祝いを申し上げるとともに、今後も引き続き対馬市政のためにもよろしくお願いをしたい旨、お願いをしていきたいという思いを持っているところでございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 分かりました。平田知事が5月に来るので御挨拶じゃなくて、やはり今言うように市長自らが行かなければ駄目なんです。相手が来るんじゃなくて市長自らアポを取って、ありとあらゆるチャンネルを使ってアポを取ってください。そうしていかなば、対馬市の予算、大変厳しいと思いますよ。その辺よろしくお願いしておきます。

ちょっとタブレットのほうに平田知事の政策を、皆さんのほうにも掲げて見られるようにしていると思います。

平田知事の対馬の政策というのが、我々もいろいろと平田知事を支持した議員で考えて、今1番の、ちょっと1番だけ説明をしますが、やはりこの一番、子育て世代への要望が一番多かった、離島在住の18歳未満の児童・生徒を対象に、文化スポーツの県大会出場時の遠征費、対馬・福岡・長崎間の交通費や長崎県内の宿泊費の支援制度を創設すると。平田知事は、選挙前です。選挙前には非常に対馬はこれが困っているということでは言われています。

そして、この早速、当選後のテレビ出演のインタビュー、これで部活動の支援体制を一番に取り組むと。そして3月2日の知事の、就任会見でも、物価高騰対策を一番にやるということで、この問題、部活動の子育て世代の部活動の問題をやるということで新聞にも載っております。

今後、非常に市長は、我々が会派で「市長、これ県のほうにお願いできませんか。」と12月に行きました。しかし、いや、県は財源が難しいでしょうと。厳しいでしょうと。やってくれるじゃないですか。熱心に要望すればできるんですよ。この辺を市長のほうも、また担当部のほうも、いろいろと県に対してもっともっとこれから予算要求、熱意を持ってやっていただきたい、そう思います。

それで、今後はやはりこの教育委員会が中心となり、この県とも非常に連携強化をしていただき、この問題について、教育長、ぜひ市長のほうにも、これは県だけでできませんので、市のほうも一緒になってやっていただきたいと思いますが、どうでしょうか、その辺の意気込みは。

○議長（春田 新一君） 教育長、糸瀬英俊君。

○教育長（糸瀬 英俊君） 失礼いたします。「平田研の対馬政策。」の一番最初に、「こどもの

挑戦をしま暮らしで左右させない。」というお言葉、文章を拝見をして、大変ありがたく、そして心強く思ったところでございます。

対馬市においても、従前からしておりますいわゆる夢づくり基金、こういったものを活用しながら、子どもたちの利便性というものを図ってきておりますが、まだ具体的な施策が見えておりませんので、そういったことも含めて、今後、連携を取ってやっていきたい。

なお、これは多分対馬のことだけではないと思うんです。平田知事がお考えなのは、壱岐もあります。五島もあります。新上五島もあります。そういった離島にいる子どもたち全体のことも考えて言っておられると思いますので、関係の教育長、4つありますので、教育長とも連携を取りながら推進ができればというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） よろしく願いしておきます。

次に、副市長2人体制について質問をしていきたいと思いますが、ここからは何点か副市長のほうに答弁をお願いしたいと思っておりますので、議長、よろしいでしょうか。お願いしておきます。

副市長体制が、表副市長は令和2年5月から2期目の6年近くになります。一宮副市長は令和6年6月からだったですかね。副市長として2人体制が始まっております。副市長というのは、やはり先ほど市長も言うように、市長を支える右腕、左腕でございます。その辺を踏まえて、まず一宮副市長が取り組まれてきた機構改革、この1年間、今現在、各部署にとってどのような成果が、副市長に考えられる、どのような思いか。一宮副市長、どうでしょうか。

○議長（春田 新一君） 副市長、一宮努君。

○副市長（一宮 努君） 糸瀬議員の御質問にお答えしたいと思います。

令和7年4月の組織改正につきましては、重要施策に対応した組織、そして職員、特に専門職の減、技術職、保健師、そういったものを踏まえながら組織改正をやったものであります。

そういった中で、成果といいますか、やっぱりこの組織というのは、社会状況、そして職員数、そういった部分に対応した形で随時変更しながら、市民の負託に応えていかなければいけないというふうに思っております。

今回の場合は、冒頭申したように、職員数の減の要因もありますし、重要施策につきましては、未来環境部を市長の下、組織させていただきました。

令和6年につきましては、大阪・関西万博によって対馬の取組のPRを発信をさせていただき、それを継続するというので、その大阪・関西万博で取り組まれた企業・団体と連携して、今、旧乙宮小学校で次の展開ということで、イノベーションセンター構想を今検討している状況であります。

そういったことから、今の組織にとって、施策に対しては一定の効果が出ておりますけれども、職員数についてはやっぱり今後も専門職の確保を向けて取り組む必要があるかなというふうに思っています。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） 今、一宮副市長のほうからいろいろと答弁がございましたけれども、次に、俵副市長、この対馬市の今いろいろ、最初に市長が役割ということで、人口減少対策を頑張るんだと市長がおっしゃっています。

この人口減少の役割、当初、俵副市長だったですね。市長が言われた人口減少の対策は。役割は。その辺は、俵副市長、どうでしたか。人口減少対策、今までやられた成果。

○議長（春田 新一君） 副市長、俵輝孝君。

○副市長（俵 輝孝君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

人口減少対策は、私に特化したという認識は私はありません。一宮副市長とも一緒に有人国境離島ですかね、の延長を目指してやっていくと。人口減少対策には有人国境離島の延長が必要だということで、長期的にも考えて進めていっていると思います。

移住・定住につきましては、先ほど市長が言ったように、移住者の増加等が施策によってできてきておりますので、若干鈍化といいますか、そういうふうになってきているというふうに、実績はある程度出ているのかなというふうに自分としては認識をいたしております。

以上です。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） いろいろと各2人の役割というのを、最初、以前、同僚議員の一般質問の最初の際に、1年前ぐらいですかね、その辺に答弁をされたときに、市長のほうを答えられていたんですね。各担当の役割というのを。それは自分で認識をされていないことは、副市長、残念ですよ。いいですか。

私は、副市長2人体制は賛成でした。賛成でした。しかし、1人は国や県から1人は採用を、人材を市長は採用してほしいということをおっしゃってはおりましたけれども、2人とも対馬市職員の出身で、やはり今後の行政運営スピード感が、やはり国、県の人を配置することによって違うのではないかって反対をしたんですけれども、もう今、2人体制でやられています。

今後、私は豊玉庁舎、もしくは上対馬庁舎に副市長を1人置いてくれということをお願いをしたことがあります。それはもうこのままでいくということですね。巖原庁舎のままで。市長、はい、分かりました。

それならば、市長から指名を受けている以上は、2人議会で承認された以上、そこがゴールで

はありませんよ。2人の副市長、いいですか。巖原庁舎で3人の市長、副市長がいても、やはり北部地区の課題解決やられていますか。たくさん課題がありますよ。巖原庁舎ばかりじゃなくて、上対馬庁舎、上県庁舎、峰庁舎、豊玉庁舎には議会で来ます。その辺に足を運ばれていますか。副市長2人、どうですか。あまり運ばれてないでしょう。たくさん課題がございますよ。いいですか。

しっかり目を向けていただき、やはりゴールを巖原庁舎だけではなく、全島を見ていただきたい。それが市長は、国、県に行って予算を取るのが市長の仕事ですよ。副市長が2人が島内を見る。そしていろんな、島外にも副市長は行きますけれども、それをやってください。これから2年間、市長、そういう指示をしてください。いっぱい問題があります。

そして、一宮副市長、副市長はやっぱり40年前、私と高校時代、どちらに転ぶか分からない楕円形のボールを一緒に追いかけたじゃないですか。もう一度、原点に戻り、その辺、北部地区の山積する課題に目を向けていただいて、ゴール目指して頑張っていってほしいと思います。よろしくをお願いします。

次に、最後、雇用機会拡充支援事業についてでございますけれども、この事業は、大変対馬市にとりましては、非常になくなくてはならないメニューだと思っております。しかし、やはりこの補助金を、確かにこの市の補助金も使います。県の補助金も使います。国の補助金もそれぞれ使いますが、やはり事業が大変厳しくなり、廃業とか事業中止など、非常にこの補助金の返還対象者が出てきているということで、この返還を、どのようにして回収をしていくのか。市民の税金を使われているわけでございますので、その返還をどのようにして、今後そのような返還対象者に対してやっていくかということを質問しているんですけれども、この辺、藤田部長、今どのような状況なのか、説明をしてください。

○議長（春田 新一君） しまづくり推進部長、藤田浩徳君。

○しまづくり推進部長（藤田 浩徳君） 糸瀬議員の御質問にお答えいたします。

先ほど市長が言われたとおり、9年間で134件の事業採択をしております。そのうち10件が、すみません。ちょっとまだ確定していない部分もありますけど、そこも含めて10件が廃業、休業状態ということで、そのうち2件につきましては、もう既に補助金の返還が完了しております。それと、もう一件が年度内に完了する予定でございます。

あと7件につきましては、まだ補助金額が確定していない部分もございまして、と言いますのが、廃業ということで、先ほど市長も答えられましたけど、まず県を通して国に報告いたしまして、その時点での補助金を使つての設備とかのその時点での価格、それに基づいて返還金のほうを決定するわけなんですけど、そちらの金額の決定につきましても国との協議が必要でございまして、国との協議が調いまして、返還額が決定して、この金額を返還していただきたいというふうに

補助対象者のほうに通知するわけなんですけど、7件につきましてはまだその時点、その段階に至っていない状況でございます。

その段階に至りましたら、決定通知を出しまして、返還額のほうを請求させていただくという流れになります。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） この補助金の返還対象者というのは、しっかりと連絡や所在の確認はできているんですか。きちっと。

○議長（春田 新一君） しまづくり推進部長、藤田浩徳君。

○しまづくり推進部長（藤田 浩徳君） すみません。その7件の中には、連絡が取れないところが数件ございます。

○議長（春田 新一君） 8番、糸瀬雅之君。

○議員（8番 糸瀬 雅之君） この連絡体制が取れていないというのもありますけども、やはりこれはしっかりとやるべきことであります。

この事業は、例えば銀行とか借入れとか、国、県、市が補助——これ担保とか保証人とか、そういう必要のない事業なんですかね。やっぱりね、これが。ですからやはりこの辺が、補助金を今、韓国人観光客が増加傾向ですが、対馬島内でこの雇用機会拡充支援事業を利用した飲食店や事業所がたくさんございます。

しかし、補助金を利用せずに自己資金で一生懸命営業されている飲食店もあります。市民から補助金のこれは無駄遣いじゃないかという声も多く出ておりますので、今後やはりこれは総務文教あたりで、委員会あたりで審査、調査、その辺をしてもらいたいと思っております。

そして、今日はいろんな、市長、副市長に対していろいろと質問をさせていただきました。最後に一言、高市総裁の選挙期間中にこのようなメッセージを発信をされております。日本列島を強く豊かに、挑戦しない国には未来はありません。守るだけの政治に希望は生まれません。希望がある未来は待っていてもやってこない。誰かがつくってくれるものでもない。私たち自身が、決断し、行動し、つくり上げていくものです。

市長、この言葉、対馬市にしっかりと置き換えていただき、残り2年、2年の任期、攻める政策をつくってってください。そして対馬を、行政、市議会、市民一体となり強く豊かな対馬列島をつくっていただくにはありませんか。市長、最後に一言、お願いします。

○議長（春田 新一君） 時間が来ていますので、簡明に。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、自民党総裁、高市総理の言葉のとおり、日本列島を強く豊かにということ、我々もこの対馬市を守るだけではなくて、攻めるという形で、大変財源的には厳しい中ではございますが、攻めてまいりたいと思っております。

以上であります。

○議長（春田 新一君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

.....

○議長（春田 新一君） 暫時休憩します。再開は11時5分からとします。

午前10時52分休憩

.....

午前11時05分再開

○議長（春田 新一君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。2番、吉野元君。

○議員（2番 吉野 元君） 皆さん、おはようございます。2番議員、新友会の吉野元です。

本日は、ツシマヤマネコを切り口とした、しまづくり戦略を議題に質問いたします。

ヤマネコを守るだけの対象から未来をつくる資源戦略へ、その転換が必要ではないか、そのことを市長に聞きたいと思います。

今、空前の猫ブームです。猫グッズやペットフード、病院など、猫による日本の経済効果は、2026年度、約3兆円に上ると言われ、ネコノミクスと言われていています。

大阪・関西万博の経済効果は3.8兆円だったということで、かなり相当な経済効果が猫にあるということです。

この経済効果を生み出す猫に注目して、ツシマヤマネコを対馬の経済対策や移住政策に活用していく、すなわちヤマネコノミクスを考えていきたいと思います。

しまづくり戦略を考えるにあたって、対馬の強みになるのは、対馬にしかないものであり、その代表がツシマヤマネコです。対馬の観光や物産、移住対策など、対馬を売り込むときに、壱岐や五島、あるいは福岡などの近隣の都市部などとの競争の中で、対馬の存在をどう目立たせ、差別化させ、勝ちにいくか。そこに行政の戦略性が問われています。

ツシマヤマネコは、御存じのとおり国の天然記念物であり、約10万年前から対馬に生き、その後、人が対馬に来た後も、歴史を共に重ねてきた存在です。

西表島には同じ種類のイリオモテヤマネコがいますが、ほかに野生の猫は、日本全国どこを探してもいません。ここにしかないという特長は、対馬にとって最大の強みです。

もう一つポイントになることは、ツシマヤマネコをやみくもに発信して売り込むのではなく、対馬市が誰にどんな価値をどう届けるのか、これを明確にすることが重要です。これはいわゆるマーケティングの視点になります。全ての人を動かさなくてもよい、本当に価値を感じる人に届けば大きな力になります。だからこそ明確なターゲット設定や売り込み方が非常に重要です。

本日、1つ目の質問は、全国のツシマヤマネコのファンをターゲットにしたしまづくり戦略と